

逞筆模試

■第四回

八月二十一日

解答難度指数 1.69

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。①～⑭は音読み、⑮～⑳は訓読みである。

(30)
1×30

- ① 犂を乗らずば過河折橋を成さじ。
- ② 図師は崩齒の上に坐して説く。
- ③ 事の歩趨を驂馭に詢う。
- ④ 南方の要衝に丞掾を遣わす。
- ⑤ 草木槲然として春已に闌珊たり。
- ⑥ 大勲睡睡たる磨鉞に外寇慄く。
- ⑦ 牀褥に輾転して早雁寒蛩を聞く。
- ⑧ 溝滝を越ゆるは榲末の伎なり。
- ⑨ 茶齋は畝を同じくせず。
- ⑩ 山祇、叢以て龍茸たるを作る。
- ⑪ 糲糲の具を入念に手入れする。
- ⑫ 神粢盛膳俎を饗け怡怡たり。
- ⑬ 百穀藜藜として、庶草蕃廡す。
- ⑭ 敬虔なる祭祀、災変疫癘を禳わん。
- ⑮ 閔睢は龠斯の徳を積まむ。
- ⑯ 豐鑠として隴畝に耕す。
- ⑰ 羹が尽きたと櫟釜して詐る。
- ⑱ 鼓噪の声、鎖鎧鉞矛が聯互する。
- ⑲ 名、巷間を亨り坤垠に臻る。
- ⑳ 蛤蜊稠きは鹹瀉の泥中に有り。
- ㉑ 賤が伏せ屋に月もさす。
- ㉒ 茨の芽野鷲きたりかくれける。
- ㉓ 夙成の郎等を率えて登壇した。
- ㉔ 枕を敬てて靈葉を曝す。
- ㉕ 蠢愚は巾幗の贈の詞めを識らず。
- ㉖ 博奕を肆にして家産を蕩尽する。
- ㉗ 城廓の角櫓に上り万里を望む。
- ㉘ 大湖を匯らし谿澗を作す。
- ㉙ 渠等は欣欣然として婚媾を祝す。
- ㉚ 天子、春秋鼎に盛んなり。

(二) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。㉑、㉒は国字で答えること。

(40)
2×20

- ① 明敏な頭脳とカンパツたる才智。
- ② 左手に金魚袋、右手にベッコウ飴。
- ③ 不必要にテキカイシンを煽る。
- ④ ご挨拶カタガタお伺いします。
- ⑤ 疎遠だった兄とのヨリを戻した。
- ⑥ 朋友の訃音に接し酷くシンギンした。
- ⑦ 陶工の遺したウスラフの骨董。
- ⑧ 帝のミイツは一朝にして衰えた。
- ⑨ 不埒千万のカタリを働く。
- ⑩ 舞踊劇のヒトコマイが感興を惹く。
- ⑪ マチがある封筒に書類を入れた。
- ⑫ 力仕事が崇ってケンシヨウエンになる。
- ⑬ 希代の名画にサタンサタンの声を漏らす。
- ⑭ 一人のサタンサタンが皆の賛同を促した。
- ⑮ 殿宇にケイシヨウ雲客が列座する。
- ⑯ 鷹のケイシヨウな滑翔が鼠を襲う。
- ⑰ 破局報道が世人のシヨウヘイになる。
- ⑱ 鳥獸を疾駆させたシヨウヘイ画。
- ⑲ 一ガロンガロンずつ飲料水が配給された。
- ⑳ 唐綾オドシオドシの鎧で出陣する。

(三) 次の1～5の意味を的確に表す語を、次の□から選び、漢字で記せ。

(10)
2×5

- ① 物事の一番はじめの部分。
- ② ひっそりとしたもの寂しいさま。
- ③ 俗世間から超然としてゐること。
- ④ 俗世間を離れた風流な交わり。
- ⑤ 自分の思うままにすること。

おうめい・いあく・かくりん
しようじょう・せんぜい
せんせん・にんびにん・へきとう

(四) 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。

(30)

問1
次の四字熟語の(①～⑩)に入る適切な語を次の□から選び漢字二字で記せ。

(20)
2×10

- | | | |
|--------|----|-----|
| (①) 棘路 | 三世 | (⑥) |
| (②) 皓齒 | 遺臭 | (⑦) |
| (③) 撫琴 | 年災 | (⑧) |
| (④) 一新 | 驚心 | (⑨) |
| (⑤) 塩車 | 泉石 | (⑩) |

いっさん・かいもん・きふく
げつおう・こうこう・たいろ
どうはく・ばんさい・めいぼう
りんかん

問2

次の①～⑤の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。

(10)
2×5

- ① 人をよい方向へ教え諭すこと。
- ② どうにも手の施しようがない。
- ③ 環境次第で人は善にも悪にもなる。
- ④ 男女が離れ、もう会うことができない。
- ⑤ 親の老衰に気付いて悲しむこと。

跼狗吠堯・磨揅遷革・軻親断機
朽木糞牆・涓樹江雲・哭岐泣練
伯俞泣杖・瓶墜簪折

(五) 熟字訓・当て字の読みを記せ。(10) 1×10

- ① 冬青
- ② 瓢虫
- ③ 水翻
- ④ 石踏
- ⑤ 石草
- ⑥ 百日紅
- ⑦ 石竜子
- ⑧ 磚子苗
- ⑨ 水爬虫
- ⑩ 金雀児

(六) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを(送りがなに注意して)ひらがなで記せ。(10) 1×10

- ア ① 馮虚…② 馮る
- イ ③ 辯髪…④ 辯む
- ウ ⑤ 肩舁…⑥ 舁く
- エ ⑦ 敵衽…⑧ 敵れる
- オ ⑨ 弥綸…⑩ 綸める

(七) 次の①～⑤の対義語、⑥～⑩の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。(20) 2×10

- | | |
|------|-------|
| ① 該博 | ⑥ 任放 |
| ② 豪宕 | ⑦ 呪詛 |
| ③ 致仕 | ⑧ 後胤 |
| ④ 頑健 | ⑨ 比倫 |
| ⑤ 鍾寵 | ⑩ 未曾有 |

えいそん・かつぼ・かんろく
こうこ・しつお・せいはい
ひりん・ふこ・るいじやく
れいそく

(八) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分を選択して記せ。(20) 2×10

- ① 天津橋上トケントケンの声を聞く。
- ② 猫のうるめシンシヤクシンシヤク。
- ③ ケにも晴れにも歌一首。
- ④ 出すことならヒタセンヒタセン一文でも嫌。
- ⑤ モツコウにして冠す。
- ⑥ 珍事チュウヨウチュウヨウ時の過ち。
- ⑦ コシキに座するが如し。
- ⑧ ドンチョウドンチョウ芝居で花道が無い。
- ⑨ 我が輩豈是れホウコウホウコウの人ならんや。
- ⑩ トグロを巻く。

(九) 文章中の傍線(1.~10.)のカタカナを漢字に直し、波線(ア~コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。(30) 2×10 1×10

A 郵船の尾張丸は二月十五日の払曉三時に青森を出帆するので、我輩は十四日の午後十一時に**1.ハシケ**に乗って出た。雪は**2.霏霧**として面を撲ち、波は静かにして**3.ハンライ**寂たり。頭を回らせば雪を以て蔽われたる青森は、さながら白雲の如くに横たわって居る。遥かに黒影の突元として聳ゆる有り。火光数点、即ち尾張丸の有る。舟に乗るや否や直ぐに船室に眠った。一睡の後目を開いたときは、既に午前八時を過ぎ、尾張丸は無事に海峡を横切つて、最早間もなく函館へ着くと云う所であった。衣を改めて食堂へ出れば、乗客は何れも食事を終わり我輩一人が残つて居た。乃ち急いで**4.チヨウサン**を済まして甲板に出でると、其所に時の第七師団長大迫尚敏將軍が、時の北海道長官園田安賢男と話をして居た。

(石川半山「鳥飛兎走録」より)

B (詔諛) 其の言を巧みにし、権門に阿り、勢家に媚ぶ。阿諛迎合して、権家に**5.ジツキン**せんとす。利達権勢の為には、首を垂れ、尾を動かす、巧に媚を呈すること、恰も猫の如く、犬の如きの態を為すあり。巧言令色、頗る其の意を迎うるに妙を得たり。阿諛諂佞、偏に其の歡心を得んとする。恰も**6.ホウカン**の如し。権貴に請托せんとして、愛を其の閨門に求め、其の**7.イ願使**に諾諾す。汲汲として其の鼻息を窺い、偏に其の**8.ケンゴ**庇陰を得んとを之れ勉む。唇頭諂諛の媚辞を弄し、其の動作の陋劣なる笑うに堪えたり。口に諧謔を弄して談笑し、衷心**9.ウ獨智**を奮うて、其の感情を損せざらんことを**10.ニ**む。(…中略…) (討伐) **11.オ**越越たる武夫、大轟の下に聚まる。大声衆を励まし、雷電奔激、山壑為に震う。尸は積みて丘をなし、血は堪えて淵となる。矯矯たる虎臣堅を被り鋭を執つて進む。屯營櫓の如く比ぶ。竜戦虎争、殊死して闘う。中軍**12.バイ**を衝んで進み、前駆**13.カ**を挙げ、帶甲鉄馬河を渡り波に声なし。三軍の將士皆精神にして向う所披靡す。旌旗野を蔽い、劍鋒森森たり。天外奇兵を出して老雄を**14.チ**す。一鞭中軍を衝き、竜怒**15.ク**天地に震う。吶喊の声一山を隔てて聞こゆるや、城兵**16.バク**出でて賊を撃つ、其の勢恰も蒼鷹の雀兔を碎くが如し。血は原野を染めて尽く紅を成す。賊軍の敗走する倒瀾の如きなり。艤艦海に浮かびて、旌旗陸を蔽う。隊伍整整として旗鼓堂堂たり。数方の豺貅陸に戦い、艤艦堅艦**17.カ**相衝みて海路を扼す。砲烟彈雨の間に馳駆す。戦えば必ず勝ち、攻むれば必ず取る、我軍の鋭鋒当たるべからず。砲声**18.コ**として天地に轟く。**19.タン**肉薄して進撃し、敵軍為に披靡す。孤軍奮闘困みを衝いて之を破る。砲烟漠漠として天日為に光を隠し、砲車麟として地軸撼う。巨弾戦艦を射て、**20.ハ**傾き、肉飛び骨擧げて鮮血淋漓たり。

(東海散士「美文ト弁字」より)